

平成21年度4月1日訓示

平成21年4月1日

みなさん、おはようございます。

早いもので平成21年度を迎えました。

まず、先程、永年にわたり公務員として勤務され、全国町村会自治功労の30年勤続表彰を受けられた5名のみなさん、おめでとうございます。

今日までの長い間、町発展のために尽くされた大変なご努力に対し心から敬意と感謝を表する次第でございます。

引き続き、健康に十分留意されまして、町民皆さんの幸せのため、「元気のでる礼文づくり」のために、更なるお力添いを賜りますようお願い申し上げます。

また、今日から私たちの新しい仲間となられた6名の新採用の皆さん、おめでとう。

心から歓迎を申し上げますとともにお祝いを申し上げます。

これまで事務職においては、退職者不補充という中で、大変厳しい状況にあったわけではありますが、久々に、フレッシュな職員を迎えました。

昨今の大変厳しい経済情勢の中で、皆さんは自ら進んで公務員の道を選ばれたわけであります。

新採用の皆さんには、早く仕事に慣れ、「町民みなさんの幸せのために働ける役場職員」になってほしいと願っています。

4月は旅立ちの季節ですが、3月は卒業式のシーズン。本町でも高校、中学校、小学校、保育所と続きました。そんな中で、3月12日の船泊中学校の卒業式で、11名の卒業生を代表して平山歩香さんからこんな「答辞」がありました。「3年間の中学校生活の中で、学校祭のときなどクラスの仲間がバラバラになったことがあった。でも、先生方から明るい笑顔と元気なあいさつがいかに大切かを教えていただいたおかげで、学校祭も仲間と協力し合って、いろいろなことを成し遂げることができ、学校祭を地域のみなさんにも喜んでもらうことができた。笑顔とあいさつが、こんなにも仲間の心をひとつにさせ、お互いを理解させたことに感謝しながら、これからも、笑顔とあいさつを大事にしていきたい。」という挨拶でございました。

私は、素晴らしいなあと思いました。

わずか一秒ぐらいのあいさつ「おはようございます」「こんにちは」これで人と人のつながりができる、お互いが理解しあえる力があるということを中学生が経験されたということが素晴らしいと思ったのでございます。

同じように、私たちも役場に来られた人に笑顔であいさつをすることが大事です。「おはようございます」「どうしましたか」ただこれだけの言葉がけが、人を元気づけられるのです。

あなたは、町民の全ての皆さんを知らないと思います。でも、町民の皆さんは、あなたが町職員であることを知っています。名前は知らないけれど、あなたが町職員であることを町の人たちは知っているのです。

私たちの仕事は、人と接し、話をする事です。会話をしながらお互いが理解することです。決して、パソコンと向き合うことだけが仕事ではありません。私たちは、そのことを船泊中学校の卒業生から教わったのでございます。

どうぞ、これから役場にいるときはもちろん、家でも、地域にいても忘れずにあいさつを交わしてください。

そうすれば、相手は変わります。あなたも、やさしく、何より、元気になれるのです。

私は、礼文町を元気な町にするためには、職員みなさんに、その大きな原動力になっていただかなければなりません。ですから、もっともっとそのことを意識していただきたいと思っています。いつでも笑顔であいさつのできる元気な職員であってほしいと願っています。21年度の始まりにあたり、まず、このことを申し上げさせていただきます。

さて、いよいよ本日から平成21年度であります。今年は「町制施行50年」の記念すべき年ではありますが、同時に、次の10年間、所謂、未来の礼文町を形作る「総合振興計画」を策定するという大事な年でもあるわけでございます。

しかし、今、日本経済は、アメリカの金融危機に始まった世界同時不況の影響から100年に一度の景気悪化の真っただ中にあります。

総額53億4,640万円の21年度予算と20年度の国の第二次補正による景気対策も、新年度に1億円ほど予算を繰り越して事業を行うことになっておりますので、元気を取り戻すため、遺漏のないよう事務をとり進めていただきたいと思います。

また、昨日でございますが、麻生総理が平成21年度での「新たな経済対策」を取りまとめるよう指示した報道がありました。経済が思うように回復軌道に乗らないために、更なる景気雇用対策を打ち出す方針であります。

その基本はみつつで「景気の底割れを防ぐ」「雇用を確保し国民の痛みを和らげる」「将来の成長力の強化につなげる」というものであります。今後、これらの取りまとめ作業が必要となりますので、よろしくお願いいたします。

また、先程申し上げましたように、今年は、地域の活性化のため「新たな総合振興計画」の策定を行うことになっていきます。将来に夢と希望をもてる元気な魅力あるふるさとをつくるために、職員みなさんの英知を結集して計画を策定していきたいと考えております。

さらに今年は、いよいよ「温泉入浴施設 礼文島温泉うすゆきの湯」がオープンします。四年前、みなさんにお約束した温泉でございます。多くの方々から1億7,743万5千円の寄付という大変なご支援をいただいて50.2度/毎分200リットル。宗谷管内でも一二の源泉かけ流しの「うすゆきの湯」でございます。町民みなさんの「健康づくり」と観光客のみなさんの「憩い」の場として愛される施設となるよう、大事に大事に使っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、NTT東日本のお話では、礼文島のブロードバンド化を進めていく方向で検討に入ったということでございます。前々から、北海道でただ一箇所ブロードバンドからはずれている町ということで、稚内や利尻からの無線方式による試験が行われてまいりましたが、やはり、光ファイバーケーブルの敷設が必要ということで、稚内～礼文、礼文～利尻、利尻～稚内間の光ケーブルの敷設をするための調査段階にあるという情報をいただきました。

今後、防災無線の更新と合せながら礼文島のデジタルディバイト解消に向けた取り組みが必要になってまいりますので、これらの対応についてよろしくお願いいたします。

最後は、わが町の財政状況について申し上げたいと思います。財政は依然として厳しい状況にございますが、おかげ様で健全化に向かって一步一步確実に歩き始めております。

20年度末の起債残高は一般会計で60億1千万円、特別会計が23億1千万円、合わせて83億2千万円となり、実質公債費比率も改善されて「21.0」となる見込みであります。

さらに、来年3月末の起債残高は、いよいよ80億円を切って77億円程度となる見込みであり、実質公債費比率も「20」を大きく下回る計画であります。18年度末が「26.2」、19年度末は「24.4」でありましたから確実に改善されてきたところであり、これも偏に職員みなさんのご理解によるところが大きいわけでございます。今後も、みなさんのご理解ご協力をいただいて、新しい総合振興計画の中で、財政の健全化に努めてまいりたいと考えております。

終わりになりますが、私は、常々、「今日の礼文町があるのは、過去において私達の先人が、町の未来に向けて行なった偉大なる努力があったおかげであり、今度は、そのことに感謝しながら、私達が、次の世代のために、決断し、実行する時である。」と思っています。 そうした中で、6月に行われる「任期満了に伴う町長選挙」に出馬することを決意し、先の町議会で表明させていただきました。

みなさんの先頭に立ち「元気な礼文町」を創ってまいります。どうぞ、皆さんも「**清く正しく美しく**」をモットーに「**スピード感**」あふれる仕事をしていただきたいと思います。

職員皆さんの更なるご支援ご協力を、心からお願い申し上げます。新しい年度にあたっての訓示といたします。